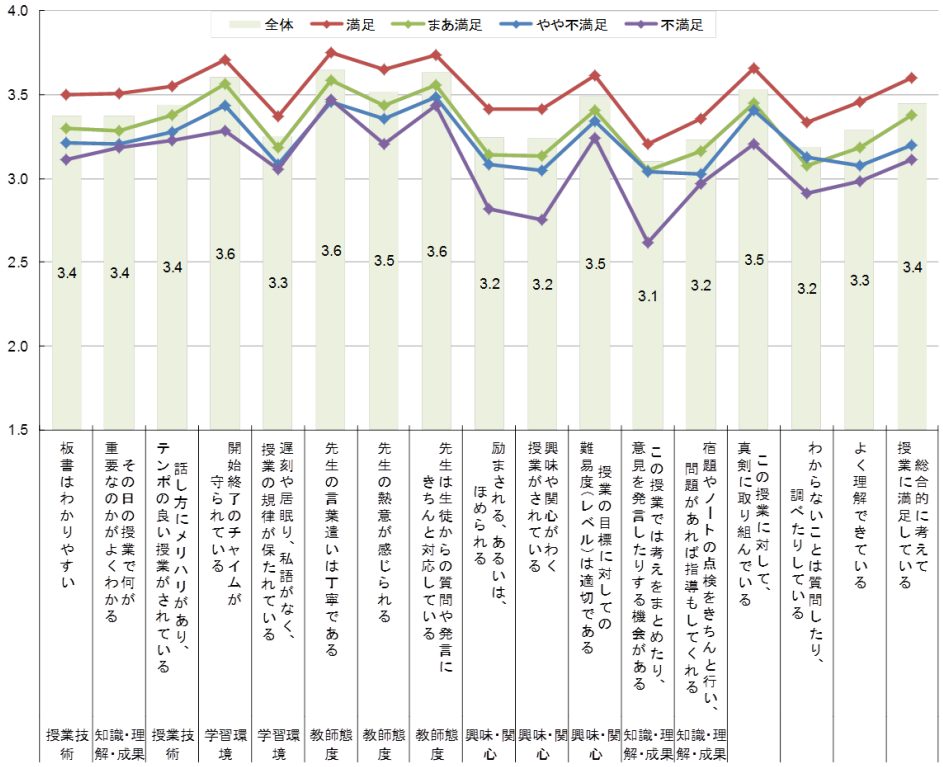
アンケート結果を受けての振り返り

2017 年度は「授業アンケート」と「学校生活等についてのアンケート調査」を同時に実施し、授業と学校生活の双方の満足度の相関やクラス環境と授業評価の関連について調査することができました。

全教科　総合満足度別　授業評価平均のグラフ



学校生活に対する満足度が高いほど授業評価が高いという結果になりました。一定予想のできた結果ではありますが、改めて授業に対する満足度が学校生活全般に対する満足度を左右するということを肝に銘じ、授業の質を向上させていくことを確認しました。2018 年度は昨年度から意識的に取り入れているアクティブラーニングの取り組みを各教科で確立させていくと共に、校内での授業研究、意見交換の時間を増加、外部研修への参加の増加といった取り組みをしていきます。

クラス環境と授業評価の関連については、調査の結果、残念ながら、クラスによって大きくばらつきが出ました。このばらつきを少しでも解消するために、全校生徒を進路目標や学習状況が近い五つのグループ(Step 1、Core コース、High コース、音楽科、英語科)に分け、科コースごとに統一した指導、また、Step２からの縦割りを意識することで、高校生活全体を見通せる指導を可能とし、現状の課題を克服していきたいと考えています。

以下は、私学経営のコンサルタント「コアネット教育総合研究所」に、アンケート結果の第三者評価を依頼した結果です。

【学校の取り組み・姿勢について】

- 北星学園女子中学高等学校は、毎年「授業アンケート」や「学校生活等についてのアンケート」を実施してきましたが、今年度は両調査を同時に行う試みを始めました。これにより、授業の満足度と学校生活の満足度の相関を見たり、クラス環境と授業評価の関連を調べたりと、より深く学校の現状を調べることができるようになりました。
- 調査結果は全教員に共有され、改善点について話し合う場も毎年設けられています。学校として、現状維持ではなく常に生徒のために向上しようとする姿勢は評価できます。

【授業評価について】

- 授業評価では、「教師態度」に関する質問項目はスコアが高かった一方で、「興味・関心」や「知識・理解・成果」については低いという結果になりました。生徒と教師の間で一定の信頼関係は築けているものの、それが授業への意欲を高めたり、自らに力がついたと十分に実感したりするまでは至っていないと考えられます。
- 上記はあくまで平均スコアに対する考察であり、実際には教科、学年、コースなどによって傾向は異なりますし、各教師でも評価の高い点・低い点には違いがあります。改善を１人１人の努力に任せるだけではなく、各教科、各学年などのチームで取り組んでいくことが大切です。

【学校生活について】

- 生徒の総合満足度は、昨年同様に約 9 割が「満足」「まあ満足」と答えており、高い水準を保っています。ただし「やや不満足」「不満足」の割合が若干ながら昨年より上がっており、厳しい評価として受け止める必要があります。
- 授業評価のスコアが高い層ほど満足度も高く、授業評価が低ければ満足度も下がることが明らかになりました。
- また、各項目の「実現度」を聞く問いについては、ほぼ全てにおいて生徒評価が昨年より向上しています。特に、「規律・礼儀」「先生の面倒見」「先生の立振る舞い」「事務職員の対応」などが目立って向上しています。
- 一方で、「成績下位者へのケア」については昨年度も最もスコアが低かったところから、さらにスコアを下げています。授業の質向上、講習の充実などを図るのはもちろん、１人１人に丁寧に関わっていく姿勢が求められているのではないでしょうか。

【フリーアンサーについて】

- 全教師が少なくとも自分の担当するクラスや科目から上がってきた声には目を通し、アンケートの数値からは分からない具体的な課題を理解する必要があります。
- 年に１度のアンケート調査が定着する中で、「毎年答えているが何も変わらない」という声が生徒・保護者双方から出ています。学校としての改善策を打ち立てても、１人の教職員がそこから外れるだけでも「改善していない」と理解されます。まずは学校としてどのような点を改めていくかを生徒・保護者とも共有し、全教職員がそれを実行していく意識が必要です。